

# やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

No. 85 (2010. 8. 5)

事務局 TEL/FAX 0584-78-4119

大垣市田町1-20-1 近藤方

## 市民による「豊かな海づくり大会」成功裡に 2010年6月5日(土)、6日(日) 岐阜で



6月5日の第一日目(於:長良川国際会議場国際会議室)は約180人の参加を得、「大盛況でした。午前中は向井貴彦・岐阜大准教授による「長良川の魚たち」、山内克典・岐阜大名誉教授による「河口堰と長良川」の講演。昼食休憩の後は、「シンポジウム 豊かな川から豊かな海へ」として、松山覚さん(長良川上流の釣り師)、小森胤樹さん(長良川の水源地森林を守る)、平田勝高さん(長良川と漁業:鶴匠の出で立ちでお話)、野田卓志さん(長良川の魚の文化:創業130年を誇る川魚佃煮の老舗「角鯨」の若旦那)、大橋亮一さん(専業漁師/ビデオ出演)、高田進さん(伊勢・三河湾流域ネットワーク共同代表)をパネラーに、粕谷志郎さん(市民による「豊かな海づくり大会」実行委 共同代表)がコーディネーターを務め、上流から海までをつなぐ、山・川・海が熱く語られました。集会アピールとして、国会で首相に指名されたばかりの菅直人氏に宛てたアピールを採択しました。この第一日目のシンポジウムについては、岐阜新聞・中日新聞・毎日新聞・読売新聞・朝日新聞に載りました(一部は別紙にて紹介します)。夕方のバーベキューは、長良橋直下流の長良川右岸(長良川国際会議場傍)で行われ、昼間の熱気の余韻を味わい、長良川を巡る来し方行く末を語り合いました。

## 恒例:徳山村キャンプ 8月21日(土)~22日(日)

ダム・河口堰を市民の側から見直す、絶好の機会が巡ってきました。徳山村の地で、今一度「ダムも河口堰も要らない!」と共に声を挙げましょう。

21日(土)13時 JR大垣駅北口集合出発、22日(日)の午後の早め帰着。

参加費:3000円~3500円程度(子供は無料)。

食事・飲み物は準備します。

参加者各自が用意するもの:寝袋 or 毛布(できるだけ)。

長袖シャツ。雨具など。my 箸、my コップ、my 皿。

① 大雨が予想されるときは中止します。予め緊急連絡先を教えてください。

② テント等、ご自分の分以外にもお持ちより頂けるとありがたいです。

③ 自分以外の荷物や人を運ぶ方は「1000円バック」です。(運搬ガソリン代補助)



8月3日、キャンプ下見で徳山ダム堤体内部見学をしました。

お申込み・お問合せは、事務局・近藤へ 0584-78-4119 Email: k-yuriko@octn.jp

大会2日目は、長良川右岸の河原を会場に、「楽しいイベント」。ラフティングによる長良川下り(35名)、長良川で魚を釣る会(14名)、長良川の歴史と文化を訪ねるまちめぐり7名、長良川水辺観察会(28名)が行われました。

詳細は事務局長ブログ

(<http://tokuyamad.exblog.jp/>

2010年6月)をご覧ください。



## 「長良川河口堰生物相調査団報告書2010」発刊 学習会と国交相・環境相への要請

「長良川河口堰生物相調査団報告書2010」を発刊して、「長良川河口堰生物相調査団が20年にわたる活動を終えました。この貴重な調査が「長良川河口堰ゲート開放」の礎となるでしょう。7月26日、「市民による『豊かな海づくり大会』実行委」としてこの学習会を開催するとともに、アピールを採択しました。翌27日に、アピールと報告書を携えて、国交相宛のものは国交省中部地方整備局に、環境相に宛のものは環境省中部地方環境事務所にもっていきました。COP10を、長良川河口堰開放の契機としたいものです。

### 「中間とりまとめ(案)」って何さ!? - 失われた15年? -

「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」のダム建設是非の基準づくり「中間とりまとめ(案)」なるものが公表され「ご意見募集」を行っています。

内容も1995年河川審答申の範囲を出ず、方式も密室的。河川行政全体を「ダム審」(ex. 徳山ダム建設事業審議委員会 1995.12 設置)以前に逆戻りさせている、としか思えません。何でもかんでも「声明」を出す当会事務局長も「呆れてモノも言えず沈黙」状態です。

平成22年7月16日

今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ(案)に関する意見募集について

国交省ホーム >> 政策・仕事 >> 河川トップ

>> 審議会等 >> 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議

[http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai\\_blog/tisuinoarikata/index.html](http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/tisuinoarikata/index.html)

### 地元世論は「長良川河口堰開放」へ

岐阜県も国も「豊かな海づくり大会」を一過性のイベントにしておくつもりだったのでしよう。しかし、「清流」「長良川」「海」とキーワードを並べてしまって「パンドラの箱が開いた」状態。「海づくり大会」関連の連載企画には、私たちの「市民による『豊かな海づくり大会』」関係者が続々登場。河口堰ゲート開放の声がわき起こってきています。

<河口堰開放、民主県連に陳情へ 長良川漁業対策協> (10.05.19 岐阜新聞) <河口堰ゲ

ー ト 「試験開放、有効」 細江岐阜市長が見解 > (10.05.25 岐阜新聞) <河口堰「開放」論議再び 経済界・首相 前向き【長良川、閉鎖15年】> (10.05.29 朝日新聞) <使わない水に59億円 愛知、三重県など長良川河口堰で負担> (10.07.06 中日新聞) <「堰も開放」高まる気運 - 運用15年 長良川河口堰> (10.07.09 中日新聞)

霞が関や永田町でのダム見直しのモタモタぶりと対照的に、河口堰批判の旗幟鮮明な報道が続きます。これまで「推進」一色だった「岐阜の政財界」も無視できない声になってきました。

## 愛知県導水路住民訴訟

第5回口頭弁論 6月2日(木) 河合道夫さんが原告意見陳述をしました。

次の第6回口頭弁論は、8月23日(月) 13:30~、近藤奎治さんが原告意見陳述をします。下の「設楽ダム裁判不当判決」を意識しての陳述です。

民主党政権が(止めるべき事業を止めることにつき)足踏みし、阿村たかし・名古屋市長は、「導水路は目下の関心事外」になってしまっています。当面は「勝利的取り下げ」は見えてきません。「本格的論戦」に入っていくことになりそうです。

## 導水路はいらない！愛知の会 提訴一周年総会

6月12日、導水路住民訴訟を担っている導水路はいらない！愛知の会の「提訴一周年総会」が行われました。名古屋市立大学の山田明教授の「愛知県財政と公共事業」、名古屋市水辺研究会の國村恵子さんの「河川・水辺の生態系と生物多様性」の講演があり、あらためて「孫子の代のために」、導水路事業のような無駄かつ破壊的な事業を止めねばならない、という気持ちを新たにしました。

## 「導水路はいらない！愛知の会」として「木曽川フルプラン中間見直し」に意見書提出

2004年の徳山ダム事業費大幅増額(負担割合変更)に伴う、木曽川フルプラン全部変更「徳山ダムをやめさせる会」として意見書を出しました。今般「木曽川フルプラン中間評価」というので、後継団体である「導水路はいらない！愛知の会」が、木曽川国土審議会水資源開発分科会木曽川部会に意見書を出しました(2010.6.15 & 2010.6.28)。

(上の3記事、導水路はいらない！愛知の会 HP <http://www.dousuiro-aichi.org/> 参照)

## 設楽ダム住民訴訟(第1審)不当判決(6月30日)

水需要に関しては原告側の言い分を(事実上)認めながら、「それでも行政裁量の範囲内」とする不当判決でした。「だったら住民訴訟の意味は何さ？」と裁判所にツッコミたい。導水路裁判も同じ裁判体で審理されています。

## 新川決壊水害訴訟控訴審判決は8月31日

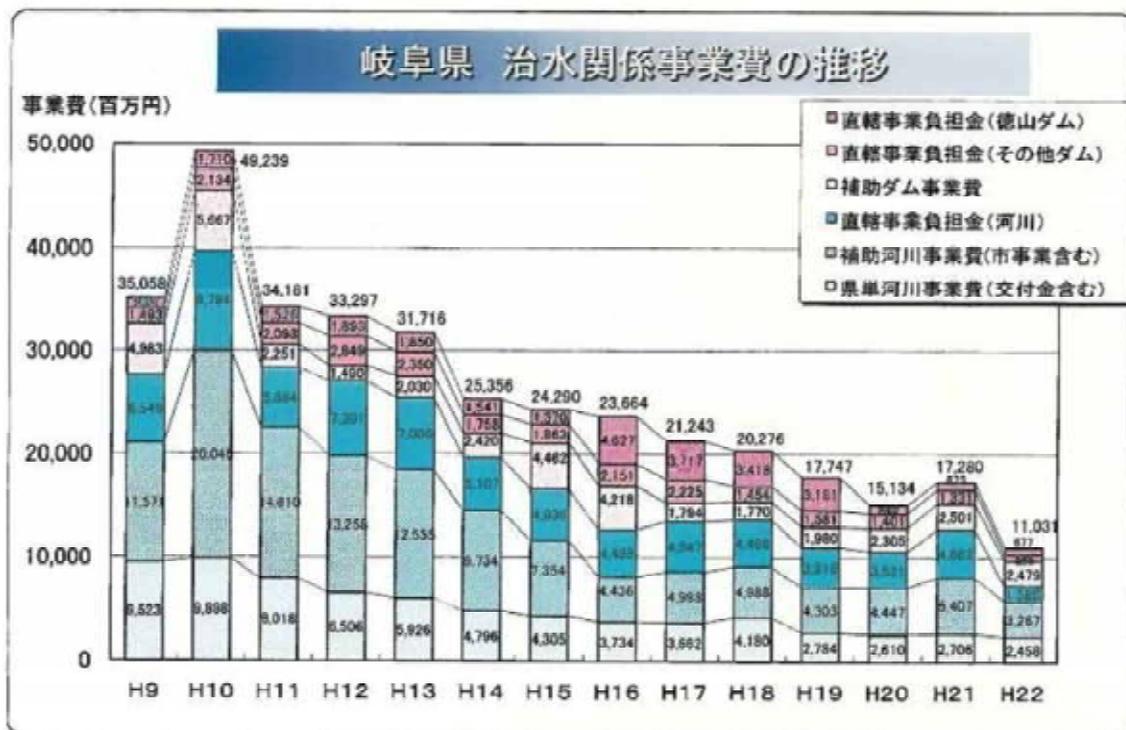
志の高い原告団(控訴人団)です。河川管理者を免罪し続ける水害訴訟に一石を投げ、河川管理・河川行政のあり方を転換する一歩となる判決となることを心から念じています。

## 荒崎水害訴訟控訴審 次回(10月5日)結審

7月20日の期日は、一審で裁判官が現地を見たときのDVDを上映しました。裁判所は次回期日での結審の意思を表明しました。次回は10月5日(火)13:30~名古屋高裁。

## 可児川の氾濫と岐阜県河川課の歪んだ超緊縮予算

7月15日、木曽川支流の可児川で、局地的豪雨による氾濫被害が起こり、3名の貴重な命が犠牲となりました。「下流優先原則」を無視した河川改修に問題があったのではないかと、という疑念も指摘されています（一応「改修済み区間」とされている一方、指定区間管理者である岐阜県が、まだ河川整備計画を策定していない場所です）。前号にお伝えした通り「徳山ダムの負担が重すぎて岐阜県には河川改修する予算がない」現実が大問題です。ダムを優先し命を粗末にしてきた梶原県政のツケをどうするのか？ 古田知事に鋭く突きつけられています。



※H9～H21は最終。H22は補助ダム、補助河川は内示額、他は県予算ベース。

## 徳山ダム裁判資料を寄贈します

### 「法政大学法政大学サステナビリティ研究教育機構環境アーカイブズ研究室」

私たちが闘った裁判の敗訴が確定してもう2年以上経ちます。この記録を埋もれさせたくないので、上記に寄贈する手続きを行っています。ここに納まると「永久保存」となります。運動全体の資料の寄贈も視野に入れて検討しています。

## 徳山ダム建設中止を求める会の今後と新しい胎動への支援について

2011年度で「徳山ダムの法的完成」です。これを機に当会を休止することを検討しています。これは「終わり」でも「敗北」でもなく、「次なる胎動」が確実に芽生えているからでもあります。同時に「あと1年は続ける」ということです。会費・カンパをよろしく。

「やめよ！徳山ダム」 徳山ダム建設中止を求める会 代表：上田武夫

公式 HP <http://www.tokuyamadam-chushi.net> 事務局長ブログ <http://tokuyamad.exblog.jp/>

編集責任：近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1

TEL/FAX 0584-78-4119

Email: k-yuriko@octn.jp

郵便振替：00800-7-31632

年会費 1000円

川の生態系を回復させるため、長良川河口堰（三重県桑名市）のゲートを上げられ  
ないか。7月、全ゲート閉鎖から丸15年となる河口堰をめぐり、議論が再燃してこ  
る。国連地球生きもの会議（生物多様性条約第10回締約国会議COP10）をにら  
み、反対派の市民団体だけでなく、政財界からも声上がり始めた。（伊藤智章）



# 河口堰「開放」議論再び

## 長良川、閉鎖15年 経済界・首長前向き

「これをヘドロ、と言わずにど  
うします」。4月25日、河口堰の  
直下流。市民団体の調査船に、川  
底で採取した真っ黒な泥をぶちま



河口堰の下流側で採取した泥を手  
にする粕谷教授 4月、桑名市

け、岐阜大の粕谷志郎教授が言っ  
た。特産のシジミの姿もない。長  
良川のアユ漁獲量もピークの2、  
3割に落ちているが、国土交通省  
は、いまだ「想定外の影響は出て  
いない」との立場を崩さない。

粕谷教授は、仲間たちと一緒に  
6月5、6日、岐阜市の長良川国  
際会議場などで「市民による『豊  
かな海づくり大会』」を開く。岐  
阜大名誉教授の山内克典さんらが  
生態系の変化などを報告する。1  
週間後、岐阜県関市の長良川など  
で開かれる行政の「全国豊かな海  
づくり大会」にぶつける狙い。

「豊かな海を言うなら、豊かな川  
を取り戻そう」というわけだ。  
財界人も、ゲート開放へ発言し  
始めた。

2009年1月、反対派が名古屋  
市で開いた市民集会に、トヨタ  
自動車元副社長で名古屋商工会議  
所副会頭の栗岡完爾氏もいた。  
名古屋市の経営アドバイザー

で、誘致段階からCOP10構想に  
かわり、河口堰への関心を深め  
た。集会後、反対派リーダーの天  
野礼子氏に会いに大阪まで出かけ  
ている。いずれ、長良川の自然再  
生事業に取り組みたいという。

河口堰の洪水対策効果は認めな  
がら「20年前の最高技術は、いま  
は最先端ではない。現代は経済と  
環境の両立を図る時代だ。当面、  
念頭にあるのはゲート開放だ。

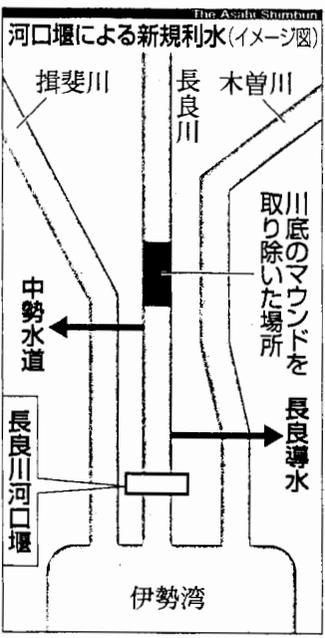
「ゲートを開けてみるのも水の  
活性化に有効だ」。賛否を言う  
状況にない」と慎重ながら、今月  
24日の記者会見で踏み込んだの  
は、細江茂光岐阜市長。漁業不振  
で、長良川の関係漁協が民主党へ  
の陳情を検討するなど情勢を受  
けて、発言した。

建設当時は「命か、環境か」  
と、議論も先鋭化した。堰完成  
で洪水対策の浚渫も終了。環境回  
復がテーマとなり、発言のハード  
ルが下がっているようだ。

## 「運用ルール変更、回数増加を」

ただ、今のところ、民主党  
政権に動きはない。「モニタ  
リング調査で問題があった、  
という報告は受けていない」  
（三日月大造・国交政務官）  
と慎重な姿勢だ。

実際はゲートを上げるに  
は、技術的な課題もある。  
計画を大幅に下回っている  
とはいえ、愛知県や三重県が  
河口堰で確保した水を上流へ  
上流の岐阜県の高須輪中の地



下水に染み込んで塩害を起こ  
したりする危険がある。中部  
地方整備局の笹森伸博・河川  
保全管理官は「ゲート開放  
は、ありえない」と話す。  
しかし、取水口を上流に移  
動させれば、問題は小さくな  
る。三重県もかつて地盤沈下  
対策で工業用水の取水口を3  
\*上流のマウンド付近に移し  
ていた。

木曾川に一部の取水口を戻  
す手もある。80年代以降、地  
域の水需要は横ばいだ。木曾  
川でカバーするのは不可能で  
はない。だが、それは愛知、  
三重両県、名古屋が数百億  
円ずつ投じて確保した水利権  
を実質放棄することになる。  
村上哲生・名古屋女子大教

授（陸水学）が提案するのは  
当面、運用ルールの変更だ。  
現在、長良川河口堰のゲー  
ト全開は毎秒800立方メートル  
超える大流量時に限ってお  
り、昨年度は年7回、平均31  
時間だった。この運用ルール  
を見直し、川の流量と塩水の  
遡上量とのバランス、風の強  
さ、潮の干満などを考え合わ  
せて、塩水が取水に影響しな  
い程度までゲート開放期間を  
増やすという案だ。

実際、利根川河口堰（千  
葉、茨城県）では生態系保全  
のため、塩水をゲート上流に  
入れている。  
国交省の淀川水系流域委員  
会にも参加した村上教授は  
「どういう方法があるか。費  
用はどこまで負担できるか。  
国交省は、公開の議論の場を  
作ってはどうか」と話す。

# 「堰も開放」高まる機運

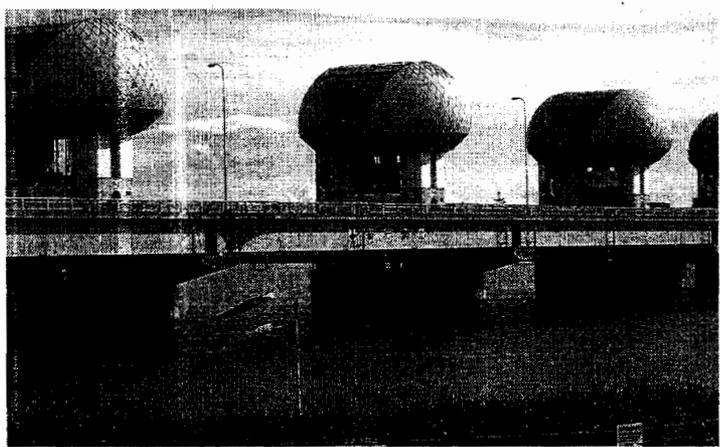
## 政権交代でダム見直し

長良川河口堰（三重県桑名市）が本格運用を始め、六日で十五年。建設後も百八十七億円の巨額の維持管理費を投じた国や自治体は、洪水防止や渇水対策の効果を確認する。だが、水の需要は予測を大幅に下回り、生態系への深刻な影響も明らかに。民主党政権の誕生でダム事業が見直される中、河口堰開放に向けた議論がにわかに熱を帯びてきた。（岐阜支社報道部・山本真嗣）

### 変化

「開放に明確に反対された」河口堰に反対した党は一つもなかった。長良川を守る岐阜連。時代が変わってきた。県民の会」の集會。運

## 運用15年 長良川河口堰



雨による出水でゲートを全開中の長良川河口堰。三重県桑名市で

## 「必要性 検証のとき」指摘も

菅委員長の加藤守さん（宅）は、五月に主要五政党本部に送った公開質問状の結果を感慨深げに報告した。

集會では、岐阜大の研究者らが河口堰運用後、上流のヨシ原が消滅したことやアユの漁獲が激減したこと、河川が工業用水が一滴に危機感を抱いていた長良川の七漁協は、堰開放を保留した民主と、口堰の工業用水が一滴も使われていないこと、利水計画は「利水計画は完全に破綻しており環る要望書をまとめた。鳩山由紀夫前首相や菅直人首相は野党時代

### 効果

開放に向けた議論が高まりを見せる中、水も、しゅんせつ区間で水害は出なかった。古屋市」の野村孝芳施設課長は「試験的な全開操作は考えていない」と開放を否定する。管理に十五年間で百八十七億円がかかれていたことが判明。このうち五十九億円は一滴も使われていない愛知県と三重県の工業用水と名古屋市の水道用水のためだった。

### 出費

「開放に明確に反対された」河口堰に反対した党は一つもなかった。長良川を守る岐阜連。時代が変わってきた。県民の会」の集會。運

- 1965年6月 ■木曾川水系水資源開発基本計画（フルプラン）に長良川河口堰を位置付け
- 73・3 ■金丸建設相が事業実施計画認可
  - 12 ■漁協関係者が建設差し止め訴訟提訴
  - 78・9 ■上松岐阜県知事が本体育工に同意
  - 81・3 ■建設差し止め訴訟取り下げ
  - 88・2 ■最後まで反対していた三重県赤須賀漁協など3漁協が着工に同意
  - 3 ■本体育工着工
  - 6 ■市民団体による反対運動が全国に広がる
  - 94・4 ■本体育完成
  - 95・1 ■建設省と水資源開発公団が「環境への影響は少ない」と判断
  - 5 ■野坂建設相が本格運用の開始を決定
  - 7 ■本格運用開始
  - 98・9 ■愛知県民が同県知事らを相手取り、河口堰にかかる公金支出差し止め訴訟提訴
  - 99・2 ■三重県民が同県知事らを相手取り、河口堰にかかる公金支出差し止め訴訟提訴
  - 2000・8 ■民主党のネクストキャビネット（次の内閣）が「3年以内にゲート全面開放措置」との見解まとめる
  - 03・3 ■愛知県民の公金支出差し止め訴訟で最高裁で原告が棄却され、県側の勝訴確定
  - 05・3 ■国土交通省中部地方ダム等管理フォローアップ委員会（塚部会）が「堰運用後の環境変化は安定。問題なし」と結論
  - 06・3 ■三重県民の公金支出差し止め訴訟で最高裁で原告が棄却され、県側の勝訴確定
  - 08・6 ■ゲートの全開操作中に1基が故障し、停止
  - 10・6 ■長良川下流域生物相調査団が「河口堰は長良川の生物多様性を損ねた」との最終調査報告書まとめる

### 長良川河口堰をめぐる動き

4 ■地点の三重県桑名市に水資源開発公団（現水資源機構）が約1493億円をかけて建設。1995年7月6日に全ゲートを閉め、本格運用を始めた。治水と塩害防止、利水が目的。

## 核心

### 期待

昨年誕生した民主党政権はダム事業の見直しに着手。東海地方では、徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を木曾川、長良川に流す木曾放」との思いが募る。

ビールを採択した。

から河口堰に批判的。十月には名古屋市中区物多様性条約第十回締約国会議（COP10）も開かれるため、反対し続けた人々には

また、治水機能についても、堰建設に伴うしゅんせつで洪水時の水位が低下したことを用と効果、影響を検証した上で、今後本当の流量となった毎秒約「」と指摘する。

長良川河口堰付近の河床のヘドロを観察する参加者=25日午前11時43分、三重県桑名市長島町、長良川河口堰上流



### 河口堰の環境考える

長良川で 河床のヘドロ採取  
市民団体

岐阜・愛知両県の市町村でいくため、岐阜大学民グループで構成する「市民による『豊かな海づくり大会』実行委員会」は25日、三重県桑名市長島町の長良川河口堰(せき)上下流で河床環境を調べ、堆積(たいせき)しているヘドロを観察した。実行委員会は市民の目線で河川環境を訴え

参加した。参加者は3隻のボートに分乗し、河口堰の下流と上流、河口堰横の揖斐川の計4地点で河床の堆積物を採取。揖斐川の採取地点では砂地にヤマトシジミの生息が確認されたが、長良川の河口堰上下流の採取地点ではヘドロのみで貝類は確認されなかった。粕谷教授は「長良川河口堰が河川環境に悪影響を及ぼしている」

と語り、「全国豊かな海づくり大会を契りある大会にするためにも、長良川の現状に目を向けて」と参加者に呼び掛けた。また、今本名誉教授は「河川工学者は治水や利水だけでなく、もつと環境に目を向けろべき。水資源機構は市民団体との環境調査や対話に積極的になってほしい」と語っていた。(瀬見井芳信)

# 豊かな山河取り戻せ

長良川河口堰(せき)が河川環境に与える影響を考える「市民による『豊かな海づくり大会』が5日から2日間の日程で、岐阜市長良福光の長良川国際会議場一帯で始まった。この日は講演とシンポジウムがあり、約180人が出席。荒廃した山や川の現状、河口堰が及ぼしている環境変化が紹介され、河口堰の開放を求める菅直人新首相あての要請文を採択した。(瀬見井芳信)

## 河口堰による環境変化訴え

岐阜市

大会は、環境保全活動などに取り組む岐阜、愛知両県の市民グループが実行委員会を組織して主催。シンポジウムは「豊かな海から豊かな海へ」をテーマとし、粕谷志郎岐阜大学教授がコーディネ

ーターを務めた。パネリストとして登壇した林業者の小森胤

樹さん(郡上市)は「山の現状に目を向けて。林業がなりわいとして成り立つ政策を望みたい」と山の窮状を語った。郷土文化の保存活動に取り組む平田勝高さん(関市)は鴉の生態を説明。釣師の松山覚さん(郡上市)と川魚つくた煮製造販売の野田卓志さん(関市)が「長良川河口堰が運用されて魚が捕れなくなった」と環境変化を指摘し、羽島市の川漁師大橋亮一さんはビデオ出演で「河口堰を開放し、豊かな長良川を取り戻して」と訴えた。伊勢・三河湾流域ネットワーク共同代表の高山進さんは「行政の

縦割りを解消し、流域ごとに意見を吸い上げる仕組みが必要」と上下流連携の必要性を強調した。6日は同市の長良川で川下りや魚釣り、水辺観察などが行われる。



長良川の河川環境について参加者が理解を深めた。「市民による『豊かな海づくり大会』」岐阜市長良福光、長良川国際会議場

## 市民グループ、独自の「海づくり大会」シンポ

# 長良川、深刻な不漁

## サツキマス「たったの64匹」 鮎 遡上、例年の1割

長良川下流の羽島市で今月2日からサツキマス漁が始まったが、例年になく不漁が続いている。11日に解禁日を迎えた鮎漁も天候不順の影響などで漁獲量が低迷しており、川漁師からは嘆きの声がかかっている。

(瀬見井芳信)

### 天候不順や河口堰影響

### 羽島の漁師「最悪」



サツキマス漁をする大橋亮一さん(奥)、修さん兄弟。今年は例年になく不漁に見舞われている  
|| 羽島市内、長良川

羽島市の長良川でサツキマス漁をしているのは、同市小熊町の大橋亮一さんと(75)と修さん(72)兄弟で、漁期は例年5月初旬から6月中旬まで。1995(平成7)年の長良川河口堰(せき)の運用以前は年間約1千匹捕れたが、河口堰運用後は漁獲量が減り続け、毎年400~1500匹で推移、今年は18日ま

でにわずか64匹しか捕れなかった。運用前に年間、千匹前後に達していたが、現在は約300匹に減っている。過去最悪だったのは、今年だ。また、今年も不漁が続いている。亮一さんは不漁の原因について「天候不順に加えて、河口堰の影響も大きい。川がせき止められて流速がなくなりサツキマスが網にかからないし、鮎の潮上も妨げられている。河口堰を春と秋だけで上げてほしい」と訴えている。

## 河口堰開放求め陳情書

### 長良川漁業 対策協 民主県連に提出へ

長良川の鮎とサツキマスの不漁を受けて、長良川水系の漁業協同組合7団体で構成する長良川漁業対策協議会(会長・玉田和浩県議)が、長良川河口堰(せき)の試験開放を国に對して求める陳情書を民主県連へ提出することになった。14日に岐阜市内で開いた同協議会の会合

で、各漁協組合長から「全国豊かな海づくり大会を契機に、鮎やサツキマスの漁獲量を回復させてほしい」との意見が相次いだため、陳情することを決めた。玉田会長は「試験開放を求める漁業者ら

民主県連への陳情

# 長良川河口堰で振興費19年間

## 56億円投入アユ戻らず

長良川河口堰（三重県桑名市）建設に合わせ、岐阜県と国が実施したアユの魚道や人工ふ化施設整備などの水産振興対策事業費は、一九九〇～二〇〇八年の十九年間で総額五十六億八千万円に上ったことが同県への取材で分かった。しかし長良川水系でのアユとサツキマスの漁獲高は九〇年当時と比べ激減している。―関連⑩面

長良川流域の七漁協は九〇年三月、水資源開発公団（現水資源機構）と八十億円の漁業補償協定を締結。同時に岐阜県も、七項目の水産振興対策に総額五十億円以上かけるとの確認書を漁協側と交わした。

県と国、同公団は、アユの人工ふ化施設（桑名市）整備に十億円、人工授精の稚アユを生産する県魚苗センター（関事業所（同県関市））建設に十五億八千万円、魚礁の設置など百

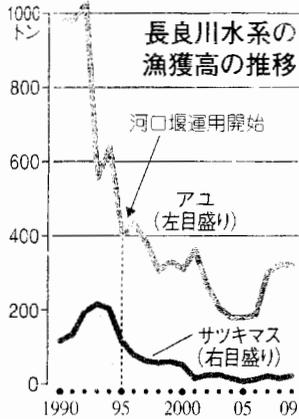
二カ所の整備に三十億五千万円をすでに投入した。七項目のうち残っているのは、アユと長良川をテーマにした建設予定の観光施設「あゆパーク」（同県郡上市）だけだ。

一方、河口堰運用前の九〇～九二年に年間十ト前後あった長良川水系のアユの漁獲高は、昨年までの過去三年間では同三百ト台まで激減。サツキマスの漁獲高も、昨年は河口堰運用前に比べると十分の一の二・二トまで落ち込んだ。

### 岐阜県と国 漁獲高1000ト→300ト

長良川漁協の大橋亮一組合長代理は「魚礁は最初は良かったが、今は泥が詰まって機能していない」と話す。

これに対し、岐阜県水産課は「ここ数年は天然アユの遡上が大幅に回復した。魚苗センターのアユも県内の放流量の半数をカバーしており、効果は出ている」と話している。



### 長良川河口堰

## ゲート試験開放、有効

### 細江岐阜市長が発言

細江光岐阜市長は24日の会見で、長良川河口堰（せき）のゲートの開放について「鮎の遡上（そじょう）激るべき」と回答している。との関連は分からないが、時として開けてみることも、水の活性化には有効」との見解を示した。

細江市長は「この日、（ゲートを下ろすこと）は、塩害の防止にもなっており、賛成、反対を申し上げる状況ではない」と前置きした上で、「水はとどまる

と腐るので、動かさないといけない」などと持論を展開。試験開放に対して柔軟な姿勢をみせた。

今季は長良川の水質が少なく、水資源機構によると、22日現在で遡上数は前年比19・1%。長良川水系の漁業協同組合7団体で構成する長良川漁業対策協議会は、漁獲量の回復に向けゲートの試験開放の必要性を訴え、近く民主党に要望する。

（舌間隆博）

10.05.25

岐阜新聞

河口堰開放 求めて声明  
市民による海づくり大会実行委

「市民による『豊かな海づくり大会』実行委員会」は24日、長良川河口堰（せき）の開放を求め、河川開

明。同協議会の陳情書提出の動きを支持し、県

長良川漁業対策協議会（会長・玉田浩典）が近く、河口堰開放を求める陳情書を民主党県連に提出することなどを受けての声明。

同実行委員会は岐阜、愛知両県の環境保全団体などで構成し、粕谷志郎岐阜大学教授と藤前千鶴を守る会の辻淳夫理事長が代表を務めている。

川河口堰（せき）の開放を県から国に要望するよう求める声明を県と岐阜市に提出した。

に対しては「長良川流域の漁民・住民の願いを受け止め、国に対して開放を働きかけることを改めて要望する」としている。

# 河口堰開放「反対」なし

## 5政党 市民団体の質問状に

市民団体「河口堰」に反対し、長良川を守る県民の会」（代表世話人・山内克典岐阜大名誉教授）は七日、民主、自民、公明、共産、社民の五政党の本部に出した公開質問状に対する回答を公表した。

「初めての政党からも明確な反対の回答がなく一歩前進だ。しかし、党首交代で慌ただしかったからか、民主党から回答がなかったのは残念」と話した。（中崎裕）

10.06.25 中日新聞

### 長良川河口堰開放

反対

渡辺さん

賛成

鈴木さん

試験的  
実施を

山下さん

小見山さん

長良川市民学習会（代表・粕谷志郎岐阜大教授）は二十四日、木曾川水系連絡導水路事業と長良川河口堰について、参院選岐阜選挙区（改選数二）の立候補者五人に出した公開質問状の回答を公表した。

国が凍結している導水路事業について、自民新人の渡辺猛之さんは「推進」と回答。一方、民主現職の山下八

### 市民団体の質問状に回答

洲夫さんは「計画見直し」、民主新人の小見山幸治さんと共産新人の鈴木正典さんは「白紙化」と答えた。運用開始後十五年を迎える河口堰のゲートを開放すべきかについて、紙化」と答えた。諸派の加納有輝彦さんは「環境とのバランスを考え、発展的解決を」と回答した。

同学習会は、導水路を開放すべきかについて、渡辺さんが「問題が、国政の重要課題」として、岐阜選と答えたのに対し、鈴木さんは「開放」、山田さんは「開放」、小見山さんは「試験的に開放」と答えた。（山本真嗣）

質問は①長良川河口堰を直ちに開放する②天然アユの遡上と降下の時期にゲートを開放する③ゲートを開放し環境アセスメントを実施する④の三項目について賛否を問う内容で、衆参両選挙の度に実施している。

昨夏の衆院選の際に②と③に賛成した民主は、期限までに回答がなく、三項目とも反対

# ダム見直し揺らぐ公約

## 2010 参院選

### 東海の課題①

の工事は長さ90分の道路拡幅だけ。ダムを起爆剤にした町おこしがらついている。

もっとも、前原誠司国交相は再検証の結論が出るまでは各事業の継続を認めている。

設案ダムでも今年3月までに水没予定の16戸が売却に応じ、家の取り壊しがあちこちで始まっている。

水余りや自然破壊などからダムに反対している同町の元教員、伊奈弘さん(65)は、それが悔しい。「再検証で中止になっても、過疎がとまらない」と嘆いた。

昨年1月、伊奈さんも参加した名古屋市のダム反対集会以、「全国のダム事業凍結」を約束したのは、野党時

代の前原氏だった。9月の大臣就任会見では「群馬県・八ツ場ダムの中止」を明言。ところが地元の反発を受け、最近はやや後退気味だ。

5月、事業費の1割以上を負担する名古屋市の河村たかし市長が撤退を表明。全国に84ある検証対象のうちで中止の有効候補と目された。



## 推進派は強気

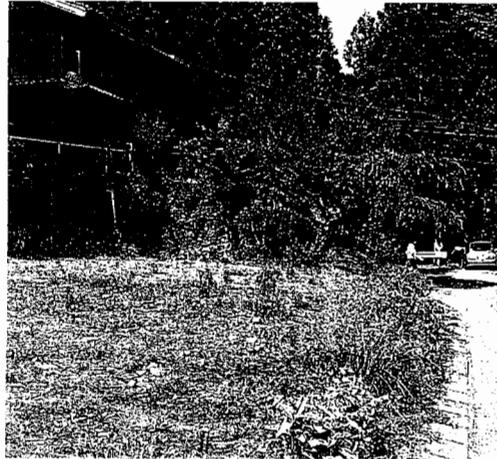
独立行政法人・水資源機構が計画する岐阜県・木曾川水系連絡導水路も同じだ。昨年

# 「無策なら普天間と同じ」

愛知県新城市の国道沿いで、年度末までの完成を目指して宅地造成が進む。同県設案町に国土交通省が計画している設案ダムの建設で、水没する予定地住民の集団移転先の一つだ。民主党政権はダムの必要性の再検証を打ち出したが、移転先の造成は県の事業で予定通りなのだ。

## 止まらぬ事業

「自民党とダムの契約をしたんじゃない。国と合意したんだ」。設案町の横山光明町長は憤る。町は昨年2月、計画から36年を経てダム建設に同意。水没する124戸の用地交渉が本格化した矢先、「コンクリートから人へ」を掲げた民主党政権が誕生した。昨年度、ダム関連の実際



設案ダム予定地で、住宅が取り壊されてできた空き地＝愛知県設案町、伊藤智写

だが、予算は昨年度の18億円から5億円に減ったものの確保された。現地建設所の柳川晃所長は「水質や魚などを継続して調べておく必要がある」と建設を見据える。

6月2日には自民党岐阜県議らが中心になり、約150人が初の建設促進大会を開いた。環境調査に100項目以上の意見を出し、建設に慎重と見られていた同県の古田肇知事も参加。「情報収集のため」として名古屋市長も姿を見せた。

この事業は890億円を投じ、徳山ダムの水を長良川、木曾川に流す計画で、導水路は未着工だが、ダムは3300億円をかけて完成済み。「今さら導水路だけやめられるわけがない」。ぐらつく政権を見て、渡辺信行・自民党岐阜県議は強気だ。

民主党の参院選マニフェストは、「できるだけダムに頼らない治水への政策転換を進める」というものの、昨夏の総選挙時に掲げた「コンクリートから人へ」という明快な

「期待をおおっておいで何も策がなかったら、米軍普天間飛行場の移設問題と同じじゃないか」。武藤さんは懸念する。  
(論説委員・伊藤智章)

11日に投票される参院選を前に、東海地方の主な政策課題を探る。

導水路に反対する市民グループ「長良川市民学習会」の事務局、武藤さん(60)は気をもむ。「ダムは、民主党が攻める材料だったはずなのに、今じゃ触れられたくない話題みたいだ」  
ダムの再検証は、各地域で国交省や水資源機構が関係自治体と協議する案が有力だ。代替案の検討を義務づけるとは言え、事業を進めてきた当事者がどう見直すのか。また、名古屋市のように一部の事業参加者が離脱しようとした時、費用をどう分担するのか。ダム中止後の生活再建はどうなるのか。具体策は示されていない。

# 「長良川が死んでしまう」

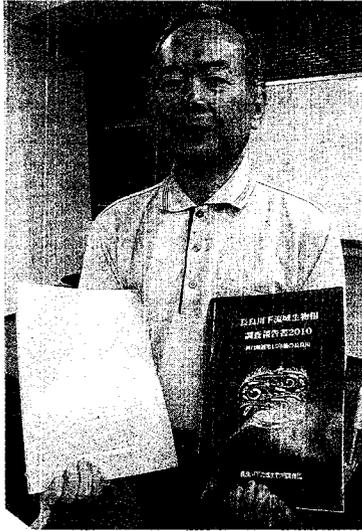
## 思い届かず 調査団解散へ

あとがきには、静かな怒り「自分たちの手で」と同志をがにじむ。「長良川の下流は 募った。濁った水たまりと化した」。

長良川河口堰の影響をボランティアーで二十年間調べ続けてきた「長良川下流域生物相調査団」。事務局長は生きもの

の叫びを聞きながら、活動を締めくくる報告書の最後のページを書いた。事務局長を務めたのは、元高校教諭伊東祐明さん

「長良川が死んでしまう」この言葉に伊東さんは危機感を抱き、自然保護団体の仲間と国に環境アセスメントを求めた。が、拒否されたため



るほど没頭した。「国の調査のいいかげんさを突きつけた」

その間、堰周辺の川は予測通り「変わっていく。広大なヨシ原は消え、アユやサツキマスの漁獲量は激減。川底にはヘドロがたい積していった。

調査団のメンバーは高齢化。解散を決め、集大成として現在の長良川の姿を報告書にまとめた。伊東さんはあとがきをこう締めくくった。

「自然河川・長良川を取り戻すべく努力をしなければ」。報告書がその第一歩になると信じている。

### 今も 河口堰生態系破壊 20年 訴え続け

報告書はA4判、百四十三ページ。五百部印刷し、無料で配布する。インターネットからもダウンロードできる。問い合わせは、岐阜大の向井貴彦准教授の研究室 電0558(2093) 3027へ。

河口堰運用後の長良川を予測した最初の報告書と15年後の長良川を検証した報告書を持って、調査団の伊東祐明事務局長は岐阜市で

の議 もい 地球地



### 岐阜新聞 10.05.26

#### 木曾川水系の開発計画

#### 中間評価を審議

国土審議会 初会 部会初全

国土審議会水資源開発分科会の木曾川部会(部長・沖大幹東京大学生産技術研究所教授)の初会合が25日、名古屋市内で開かれ、国土交通省が約5年ごとに行っている木曾川水系の水資源開発基本計画(フルプラン)の中間評価について審議した。

現行のフルプランは2004(平成16)年6月に全変更を実施。国土交通省は今回、水需給計画の状況や建設事業の進捗よく状況・効果などについて中間評価を行う。夏ごろまでに

(井上吉博)

# 長良川河口堰 運用15年

# 使わない水に59億円

## 愛知、三重県 名古屋 維持管理で負担

六日で本格運用から十五年を迎える長良川河口堰(三重県桑名市)の昨年度までの維持管理費が百八十七億円に上ることが、水資源機構中部支社(名古屋)などへの取材で分かった。このうち愛知、三重両県は工業用水、名古屋は水道用水の管理費として計五十九億円を支払ったが、一滴も使われていない。老朽化した設備の更新期を迎え、経費はさらにかさむ見通しだ。

愛知、岐阜、三重の三県が負担。利水分の維持管理費は利用者負担となり、水道用水分を愛知、三重両県と名古屋市が、工業用水分を愛知、三重両県が負担している。

数年前からは設備の更新が本格化。昨年、ゲートを操作するメーコンコンピュータを三億五千万円で入れ替え

更新期を迎える。同支社は「長期的な視点で必要な水で、維持管理費も、適正な管理水準を保つための規定を」と話す。

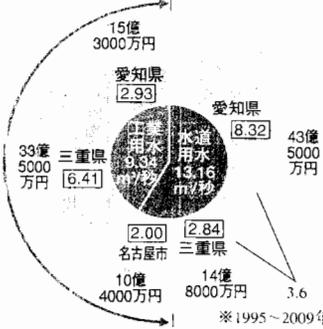
藤達也法政大教授は「ダムや堰は莫大な建設費が必要だけでなく、造った後の維持管理を続けるしかない。客が一割しか入っていない旅館に、高額な経費をかけるのは民間ではあり得ない」と話している。

同支社によると、維持管理費は毎日の堰の操作や点検、補修費、千万円(平均十二億五千万円)が使われ、本管理所の職員の人員費と

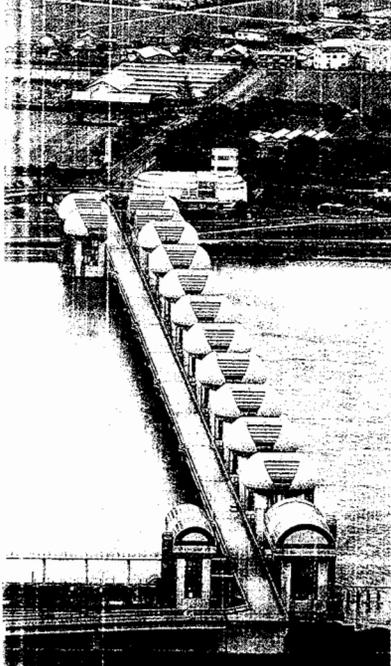
今年度も十億円の予算が九億八千万、十五億六千万、河川堰には治水と利水の機能があり、治水の維持管理費は国と

水が使われているのは、(最大毎秒二・五立方)のうち、実際に工業用水の維持管理費は十五億三千

万円で、三重県は二億三千万円、三重県は二億三千万円、三重県は二億三



□内数字は各県と名古屋市が利用できる水(m³/秒)は実際に水利権を設定して給水している水



本格運用から15年。昨年度までの維持管理費が187億円に上ることが明らかになった長良川河口堰(右が河口側)＝5日、三重県桑名市で、本社へ「まなづる」から(横田信哉撮影)

長良川河口堰 河口から5・4キロ地点の三重県桑名市に水資源開発公団(現水資源機構)が約1493億円をかけて建設。1995年7月6日に全ゲートを閉め、本格運用を始めた。治水と塩害防止、利水が目的。

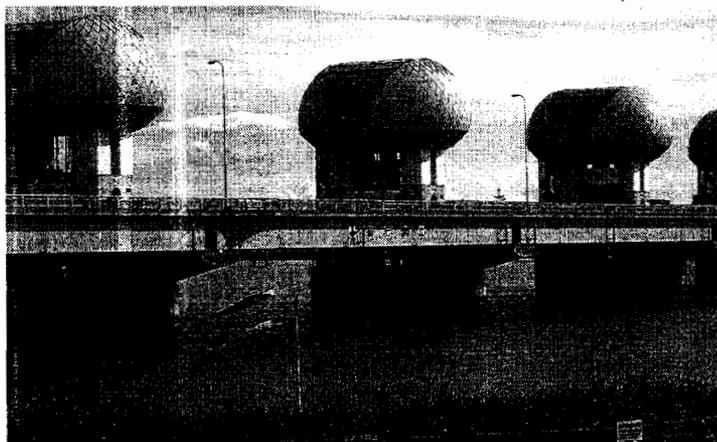
で、少しでも管理費を軽減してもよい」とある。この要請はしている」と話している。

# 「堰も開放」高まる機運

## 政権交代でダム見直し

長良川河口堰（三重県桑名市）が本格運用を始め、六日で十五年。建設後も百八十七億円の巨額の維持管理費を投じた国や自治体は、洪水防止や渇水対策の効果を確認する。だが、水の需要は予測を大幅に下回り、生態系への深刻な影響も明らかに。民主党政権の誕生でダム事業が見直される中、河口堰開放に向けた議論がにわかに熱を帯びてきた。（岐阜支社報道部・山本真嗣）

## 運用15年 長良川河口堰



雨による出水でゲートを全開中の長良川河口堰。三重県桑名市で

「開放に明確に反対された」「河口堰に反対した党は一つもなかった」、長良川を守る岐阜連。時代が変わってき、県民の会」の集會。運

変化 三日、岐阜市で開か

## 「必要性 検証のとき」指摘も

菅委員長の加藤守さん（左）は、五月に主要五政党本部に送った公開質問状の結果を感慨深げに報告した。

集會では、岐阜大の研究者らが河口堰運用後、上流のヨシ原が消滅したことやアユの漁獲が激減したこと、河川に危険を抱いていた長良川の七漁協は、堰開放を保留した民主と、口堰の工業用水が一滴も使われていないこと、利水計画は「利水計画は完全破綻しており環る要望書をまとめた。鳩山由紀夫前首相や菅直人首相は野党時代

効果

出費

開放に向けた議論が高まりを見せる中、水害は出なかった。八千立方尺が流れた時管理に十五年間で百八十七億円がかかれていたことが判明。このうち五十九億円は一滴も使われていない愛知県と三重県の工業用水と名古屋市の水道用水のためだった。

開放に向けた議論が高まりを見せる中、水害は出なかった。八千立方尺が流れた時管理に十五年間で百八十七億円がかかれていたことが判明。このうち五十九億円は一滴も使われていない愛知県と三重県の工業用水と名古屋市の水道用水のためだった。

- 1965年6月 ■木曾川水系水資源開発基本計画（フルプラン）に長良川河口堰を位置付け
- 73・3 ■金丸建設相が事業実施計画認可
  - 12 ■漁協関係者が建設差し止め訴訟提訴
  - 78・9 ■上松岐阜県知事が本体育工に同意
  - 81・3 ■建設差し止め訴訟取り下げ
  - 88・2 ■最後まで反対していた三重県赤須賀漁協など3漁協が着工に同意
  - 3 ■本体育工着工
  - 6 ■市民団体による反対運動が全国に広がる
  - 94・4 ■本体育完成
  - 95・1 ■建設省と水資源開発公団が「環境への影響は少ない」と判断
  - 5 ■野坂建設相が本格運用の開始を決定
  - 7 ■本格運用開始
  - 98・9 ■愛知県民が同県知事らを相手取り、河口堰にかかる公金支出差し止め訴訟提訴
  - 99・2 ■三重県民が同県知事らを相手取り、河口堰にかかる公金支出差し止め訴訟提訴
  - 2000・8 ■民主党のネクストキャビネット（次の内閣）が「3年以内にゲート全面開放措置」との見解まとめる
  - 03・3 ■愛知県民の公金支出差し止め訴訟で最高裁で原告が棄却され、県側の勝訴確定
  - 05・3 ■国土交通省中部地方ダム等管理フォローアップ委員会（塚部会）が「堰運用後の環境変化は安定。問題なし」と結論
  - 06・3 ■三重県民の公金支出差し止め訴訟で最高裁で原告が棄却され、県側の勝訴確定
  - 08・6 ■ゲートの全開操作中に1基が故障し、停止
  - 10・6 ■長良川下流域生物相調査団が「河口堰は長良川の生物多様性を損ねた」との最終調査報告書まとめる

長良川河口堰をめぐる動き

4 ■地点の三重県桑名市に水資源開発公団（現水資源機構）が約1493億円をかけて建設。1995年7月6日に全ゲートを閉め、本格運用を始めた。治水と塩害防止、利水が目的。

## 核心

期待

効果

出費

昨年誕生した民主党政権はダム事業の見直しに着手。東海地方では、徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を木曾、長良川に流す木曾放しとの思いが募る。

開放に向けた議論が高まりを見せる中、水害は出なかった。八千立方尺が流れた時管理に十五年間で百八十七億円がかかれていたことが判明。このうち五十九億円は一滴も使われていない愛知県と三重県の工業用水と名古屋市の水道用水のためだった。

また、治水機能についても、堰建設に伴う水位が低下したことを指摘。〇四年十月の台風23号による豪雨で、長良川で観測史上最高の流量となった毎秒約

堰は老朽化が進み、〇八年六月にはゲートを全開操作中に1基が故障して停止する事故も。設備更新が本格化し維持管理費は今後さらに膨らむ見通しだ。名古屋市長の山田



# ダム検証 実効性疑問の声

## 中止時負担にも触れず

国土交通省の有識者会議が13日に提言したダム検証のあり方は、事業者が検証主体になって関係自治体などと協議する内容で、事業中止時の費用負担にも触れていない。事業に反対する住民らから実効性を疑問視する声が上がっている。

――1面参照

東海3県で検証の対象になるのは、木曾川水系連絡導水路(岐阜県)のほか、設楽ダム(愛知県)、川上ダム(三重県)、新丸山ダム(岐阜県)などだ。

提言に沿うと、例えば導水路の場合、水資源機構中部支社と中部地方整備局が主体になり、愛知、岐阜、三重3県と名古屋などと協議することになる。同市の河村たかし市長は昨年、この事業からいったん撤退を表明して愛知県などから猛反発され、「科学的に必要性を検討してほしい」と国側にけたを預けた。しかし、国交省は地域での検証に任せ、事業撤退時の費用負担ルールも明確にしないまま。このような状況のなかで、名古屋市と3県との調整が進められるかは不透明だ。

提言はダム建設を念頭に、堤防強化などの代替案検討も求めている。

しかし、すでに完成した揖斐川の徳山ダムの水を長良川、木曾川に引く導水路事業の場合、ほかの方法は考えにくい。事業に反対してきた市

民グループ「長良川市民学習会」の近藤ゆりさんは「これでは事業をする続けるための検証になってしまう」と話す。

設楽ダムの建設に反対し、立ち木トラストなどを展開する愛知県設楽町の元教員、伊奈紘さんも「前原国交相はダムをやめる気がいままあるのか。最初は期待していたが、事業者がきちんと検証できるはずがない」と疑問視する。

ダム事業に詳しい在間正史弁護士(愛知県弁護士会)は「治水のあり方を検討する有識者会議が、利水などほかの目的もあるダムの検証方法を提案したこと自体、おかし」と話す。過大さが指摘さ

### ダムに代わる治水対策のイメージ



ダムの有効活用  
高さをかさ上げし容量を上げる

住宅地を囲む輪中堤

露堤(かすみてい) 堤防の一部をあげ、水をあふれさせる

二線堤  
道路を堤防として利用

遊水池

住宅や団地に雨水タンク

遊水池 場合によっては水田も使う

土地利用と開発の規制

河道の掘削 河床や河岸を掘り下げ流れる量を増やす

住宅の地下に雨水マス

携帯電話やハザードマップを使った避難対策

れている水需要予測や河川環境維持に必要な流量の検証の指示が、今回の提言では不十分だと指摘する。

検証への参加を求められる自治体側にも戸惑いがある。愛知県河川課の担当者は「さらに深く検証せよ、というこ

どなるのが、いままでいい加減にやっていたわけでは無い。県の意見は変わらない」としている。

(論説委員・伊藤智章)

ダムありきに一石

今本博健・京大名誉教授(河川工学)の話 従来の枠組みから進歩があるとはみえない。ダム建設では、河川の拡張などダム以外の治水対策と比較したうえで、建設を決めてきている。これまでのダム以外の治水対策は単に形式を整えるためだけのものが大半だが、今回、その反省があるのかといえる。そうでもない。ダムがダム以外の対策を選ぶための検証も、外部推進派の多い首長が中心に進めるとなれば、変化が期待できる。

宮地良彦・信州大学名誉教授の話 ダム以外の治水対策を必ず検討する手順を盛り込んだのは画期的で、大きな前進と評価したい。これまでは一度決まると「ダムありき」ですべてが進んだ。そうした流れを根本から変える一歩になる。2001年、田中康夫長野県知事(当時)の「脱ダム宣言」を受けて発足した検討委員会委員長をしていた時、

# 岐阜東部大雨

# 未整備下流ではんらん

## 可児川堤防「流れ十分」想定

岐阜東部を襲った大雨から一夜明けた十六日。崩れた裏山の土砂に一家三人がのみ込まれた同県八百津町の現場では、全員が遺体で見つかる最悪の結果を迎え、重苦しい空気に包まれた。一方、男女三人が行方不明になっている同県可児市の可児川では、川幅が急激に狭くなる下流の堤防未整備区間ではんらんが発生したことが判明。上流は整備が完了しており、専門家から河川整備の進め方を疑問視する声も上がっている。

岐阜県可児市では、下した名鉄広見線のガードを想定。ハザードマップでガード下を、らんした可児川は、下の南側を流れる区間で、五十年に一度の間は改修の対象外で堤防があふれた水がたまる市の水害を想定した河川防がなく、川幅も急激に狭くなる。ここに指定していた。可児市は、河川課によると、



可児川の未改修区間（中央の左側）から水があふれ、河岸の駐車場から大型トラックが流された。十六日午前、岐阜県可児市で、本社へ「まぼろし」から

可児川の河川改修計画では、洪水時に毎秒八百立方メートルの水が流れるように河道掘削や堤防のかさ上げなどの工事を進め、昨年度に終了。五十年に一度の水害に対応する改修を終えた川は県内に二つしかなく、可児川は「安全度の高い川」（河川課）のはずだった。

「自分が先に逝く順に活動に携わった人に頭下を下げた。土砂崩れをもちいた前夜の豪雨とは一転、気温三〇度を超える蒸し暑さの中、懸命の救出作業が続いた。古田肇岐阜県知事が激励のため、現場視察に訪れていた午後三時三十分、長男の英明さん（この遺体を発見。午後六時四十五分には夫の直美さん（全名も）も発見された。田んぼのあぜ道で作業を見守っていた同町の西木津、赤塚誠治さん

「懸命の搜索「残念…」」  
「自分が先に逝く順に活動に携わった人に頭下を下げた。土砂崩れをもちいた前夜の豪雨とは一転、気温三〇度を超える蒸し暑さの中、懸命の救出作業が続いた。古田肇岐阜県知事が激励のため、現場視察に訪れていた午後三時三十分、長男の英明さん（この遺体を発見。午後六時四十五分には夫の直美さん（全名も）も発見された。田んぼのあぜ道で作業を見守っていた同町の西木津、赤塚誠治さん

「戸走橋よりも東側（上）にあふれたとみられ、流は夫改修で、ガード下のある右岸側は左岸よりも二層近く低く、堤防もない。想定を越える雨が降れば、あふれ出す恐れがあり、県は一部を浸水想定区に指定していた。十五日夜は一時間で最大七〇の超の猛烈な雨が降り、水位が急上昇。大量の水が戸走橋の下流の中州にぶつかり、堤防のない右岸側に要請。県は現計画を判断している。

「戸走橋よりも東側（上）にあふれたとみられ、流は夫改修で、ガード下のある右岸側は左岸よりも二層近く低く、堤防もない。想定を越える雨が降れば、あふれ出す恐れがあり、県は一部を浸水想定区に指定していた。十五日夜は一時間で最大七〇の超の猛烈な雨が降り、水位が急上昇。大量の水が戸走橋の下流の中州にぶつかり、堤防のない右岸側に要請。県は現計画を判断している。

# 長良川河口堰

# ゲート開放求める

## 市民団体 国交相らに要請書

東海三県の環境団体などをつくる「市民による『豊かな海づくり大会』実行委員会」は二十七日、名古屋市の中部地方整備局と中部地方環境事務所を訪れ、長良川河口堰(三重県桑名市)のゲート開放を求める国土交通相、環境相あての要請書を提出した。

(山本真嗣)

実行委は六月に岐阜 かな海づくり大会」にを十年間調査してきた「長良川下流域生物相調査団」の報告書が発行されたのを受けて、二十六日に岐阜市内で報告会を開催。アユの漁獲激減やヨシ原の枯死などの環境破壊



が進んでいるとして、ゲート開放を求める集会アピールを採択した。要請書には、集会アピールと報告書を添付。名古屋市内で十月に開かれる生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)に触れ「開催地にふさわしい行動を世界に向けて発信できるよう勇断を」と求めている。

の発展に寄与し、社会に貢献していきたいと

している。(神保絵利子)

## 「長良川調査団」が解散

活動報告会 20年間の環境変化語る



調査報告会で長良川の環境変化を語る伊東祐朔さん＝岐阜市橋本町、ハートフルスクエア-G

長良川河口堰(せき)の建設、運用による自然環境の変化を予測、調査してきた長良川下流域生物相調査団(团长・山内克典岐阜大学名誉教授)は、調査報告会を岐阜市内で開いて解散し、20年にわたる活動に幕を下ろした。

同調査団は、大学の授や獣医師、建築士ら51人が集まり、1990(平成2)年に結成。科学的な視点から、河口堰の運用が動植物や水質に及ぼす影響を調べてきた。調査報告会の冒頭、同調査団事務局長で元高校教諭の伊東祐朔さん(71)は「環境悪化の予測はほぼ的中、

思惑より悪くなった項目もあった。報告書を通して長良川の現状を知ってもらいたい」と述べた。

その後、千藤克彦調査員が、報告書を基に激減したヨシ原の植生や、回遊魚(鮎、サツキマス)とシジミ類の現況を伝えた。長良川の環境回復を願う調査団の思いと労を惜しまない長年の努力に、参加者からねぎらいの拍手が送られた。(瀬見井芳信)

岐阜新聞  
2010.07.27